

言語能力の育成

基礎的・基本的な「知識及び技能」を習得し、これらを活用して課題を解決するために必要な「思考力、判断力、表現力等」を育むとともに、「主体的に学習に取り組む態度」を養うために言語活動の充実が求められています。国語科を中心に他の教科と連携して、子どもたちの言語能力を育んでいきます。



▲自分の考えを書き、友達の考えと比較する



▲一人一人の意見を出し合い、社会科でこれから調べたいことを決める

情報活用能力の育成～プログラミング教育～

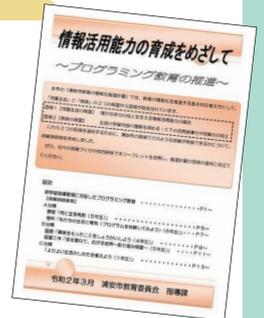
「必要な情報を収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力」とされる情報活用能力が重要視されています。また、プログラミング教育では、コンピュータがプログラムによって動き、社会で活用されていることを体験しながら論理的思考力を身に付けていきます。



▲自分の出した指示でコンピュータ上のキャラクターを動かす

本市では情報活用能力の育成に取り組むため、指導事例を掲載したリーフレットを作成しました（右写真）。

これまでに各小中学校で行ったICTを活用した事例を全小中学校で共有できるよう整備しています。ICTを活用することで、子どもたちの情報活用能力を育んでいきます。



外国語教育

5・6年生は教科として「外国語科」が始まります。「聞くこと」「話すこと」に加えて、「読むこと」「書くこと」の力を育みます。



▲夏休みの思い出について英語で書き表す

「読むこと」では、音声で慣れ親しんだ語句や表現を、アルファベットを見て発音できるようにすることを目指します。

「書くこと」では、アルファベットで、大文字と小文字が書けるようにすること、また、音声で十分に慣れ親しんだ単語や文について「なぞり書き・写し書き」ができるようにすることを目指します。



▲学級担任とA・L・Tとで連携を取りながら授業を行う

キャリア教育

キャリア教育とは、子どもたちの社会的・職業的自立に向けて、必要な基盤となる能力や態度を育むことがねらいです。そして、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していけるようにすることを目指します。

今年度から、「キャリア・パスポート」というポートフォリオ的な教材を使い、自分たちの学習活動等の学びのプロセスを記述し、振り返るために活用していきます。これは、小学校入学から高校卒業までの記録を学年・校種を越えて引き継いでいくものとなります。



▲小学校で「仕事」について、様々な職業の方から仕事内容ややりがいについて話を聞く



▲「キャリア・パスポート」を活用し、小学校で考えたことを振り返りながら、中学校で「仕事」についての話を聞く